

議員提出議案第 17 号

西田昌司参議院議員によるひめゆりの塔をめぐる発言等に対する抗議決議

このことについて、石垣市議会会議規則第 14 条第 1 項の規定により提出いたします。

令和 7 年 6 月 24 日

提出者	長	浜	信	夫
賛成者	宮	良		操
	〃	砥	板	芳 行
	〃	井	上	美智子
	〃	花	谷	史 郎
	〃	内	原	英 聡
	〃	大	道	夏 代
	〃	田	盛	英 伸

石垣市議会

議長 我喜屋 隆次 殿

理 由

西田参議院議員には、戦後 80 年経っても、今なお、癒えることのない戦争体験者や遺族の深い悲しみの声に真摯に向き合い、沖縄戦の実相と史実を正しく認識するよう求めると共に、発言に対し強く抗議するため。

西田昌司参議院議員によるひめゆりの塔をめぐる発言等に対する抗議決議

令和7年5月3日の憲法記念日に、那覇市で開催された憲法シンポジウムにおいて、西田昌司参議院議員が、ひめゆりの塔の展示をめぐる「歴史の書き換え」や「沖縄の場合には地上戦の解釈を含め、かなりむちゃくちゃな教育のされ方をしている。」等、発言した。また、「日本軍がどんどん入ってきて、ひめゆり隊が死ぬことになった。そして、アメリカが入ってきて沖縄が解放された。亡くなった人は本当に救われない。」更に、「自分たちが納得できる歴史をつくらないと。」と、発言をした。西田参議院議員の発言は、沖縄戦の実相をゆがめ、戦没者や戦争体験者を冒とくし県民の尊厳を踏みにじるものであり、強い憤りと怒りをもって抗議する。

沖縄戦では軍民混在の状況の中、住民を巻き込んだ激しい地上戦で県民の4人に一人が犠牲となり、おおよそ24万人もの多くの尊い命が奪われた。ここ八重山においても、軍命により住民がマラリア有病地帯への避難を強いられ、3千6百人余の尊い命が失われた。西田参議院議員は5月7日の会見において、発言を撤回しないと表明したが、9日の会見ではシンポジウムでの発言は撤回、謝罪はしたものの「歴史の書き換え」などとの認識は変わらないとする姿勢である。6月9日の参議院決算委員会での発言も同様であり、その不誠実な対応には強い憤りを覚える。沖縄の歴史教育や平和教育を非難した根幹部分は謝罪も撤回もしないまま、一連の発言は沖縄戦の実相を認識せず、歴史を修正しようとするもので断じて容認できない。

また、5月30日発売の月刊「正論」では、同氏が京都府議会議員だった頃の後援会機関誌を根拠に「ひめゆりの塔には年表のように壁に掲示してあり、日本の『侵略』により戦争が始まり、米軍の『進攻』又は『反攻』により戦争が終わったと書いてあったとし、まさに『日本軍は悪、米軍は善』という東京裁判史観そのもの」と記している。

沖縄の平和祈念公園には、世界の恒久平和を願い、国籍や軍人、民間人の区別なく、沖縄戦で亡くなられたすべての人々の氏名を刻んだ「平和の礎」がある。そこには西田氏が言う「日本軍が悪」で「アメリカ軍が善」といった特定の観念はなく、先の戦争で尊い生命を落とされたすべての戦没者を分け隔てなく追悼し、悲惨な戦争の教訓を正しく継承し、恒久平和を希求する場となっている。

西田参議院議員には、戦後80年経っても、今なお、癒えることのない戦争体験者や遺族の深い悲しみの声に真摯に向き合い、沖縄戦の実相と史実を正しく認識するよう求めると共に、発言に対し強く抗議するものである。

以上、決議する。

令和7年6月24日

石垣市議会

宛先 参議院議員西田昌司